

県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	令和4年度 関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第76回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会	開催地	神奈川県 小田原市
報告者名 (所属連盟)	平山 智章 (U18) 倉持 雄一、小玉 大地 (社会人)	派遣期間	令和 4年 6月 4日 ~ 5日
参加者 (所属都県)	(本部) 平原勇次・梶崇司 (氏名) 東祐二・小澤勤・細田知宏 (茨城) 大野太裕・土田康隆・菊池瑞昭・根本優 (栃木) 平出剛・平山智章・倉持雄一・小玉大地 (群馬) 小澤朋克・内野翔太・塚越洋平・八木原零 (埼玉) 若林哲・小原宏太・土屋友由・村上翔 (千葉) 大川尚・安藤俊明・渡邊拓人・猪股祐介 (東京) 管祐介・中野嗣久・瓜田真司・上坂紘也 (山梨) 手塚清孝・佐田幸一・大木裕一・望月裕太郎・清水倫人 神奈川県審判委員の皆様		
【審判会議内容】 ・コロナ禍により、ZOOMにて審判会議が行われた。 ・会場関係や宿泊関係の説明をいただき、簡略的に会議は終了した。			
【感想・県内審判員へ伝えたいこと】 今回の関東男子は、私自身久しぶりの関東大会派遣であり、以前よりお世話になっている方や、初めてお会いする方など、たくさんの方と交流することができ、やはり関東ブロックは良いブロックだなと改めて感じることができました。 今大会では、Bブロックの1回戦と準決勝を担当させていただき、ベーシックなメカニクス・クロックの管理・判定したものを伝える力など、普段県内のインストラクターの方々からご指導していただいていることの重要性を改めて感じることができました。そして、それらは全てプレーを判定するために行うことであり、自分の判定力を磨き続けることが必要だと感じた2日間でした。 今回経験させていただいたことを、県内大会等で県内審判員の皆様にお伝えしていければと思います。 今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました神奈川県バスケットボール教会の皆様、そして、大会期間中様々などころまでお気遣いいただき、お世話になりました神奈川県審判員の皆様に御礼を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。 <div style="text-align: right;">報告者: 平山智章</div>			
今回、昨年度に続き、関東大会へ参加させていただきました。コロナ禍ではありましたが、有観客での開催となり、大いに盛り上がった大会になりました。 クルーの方と合流し、会場の雰囲気や県外のトップレベルのチームを目の前にし緊張感を感じながら、コートに向かいました。試合の反省としては、1試合を通して目の前の現象を根気強く判定する力が不足してしまいました。原因としては、準備不足や、自信の無さからなるものでした。今回の試合で悔しい思いをしたことは絶対忘れず、今後の審判活動に活かしていきたいと思えます。また、原因解決のため、たくさん試合を吹き、様々な経験を積みたいと思えます。 最後に、社会情勢的に先行きが不透明な中、今回の派遣に際ましてご配慮頂きました平原勇次ブロック長、梶崇司県審判長をはじめ、県内審判員、神奈川県の審判員の皆様、大会関係者各位に感謝申し上げます。 <div style="text-align: right;">報告者: 倉持雄一</div>			
今大会は自身初めて参加させていただき関東大会であり、大会初日にBブロック1回戦に割り当てをいただきました。コロナ禍の開催ではありましたが、観客も入っており、関東大会の雰囲気や初めてお会いした方々とクルーを組むこと、また、関東のトップレベルのチームの試合を担当させていただき、貴重な経験となりました。 PGCでは、クルーでメカニクスの確認や共通認識とすること、当該チームの情報を共有し合い、試合に臨みました。自身の課題として、特に、レフェリーディフェンスとテンポセット、声でゲームをリードすることを意識して臨みました。反省として、試合中に両チームの特徴や戦術を共有することは非常に重要であることを学び、個人としては、ファウルノーコールの決断力、判定力が不足していること、クロック管理、ボールウォッチャーになっている時間が長かったことが目立ちました。今後の活動では、今大会を通じて課題となったことの改善に取り組みたいと思えます。 最後に、今大会への派遣に際しまして、梶審判長様を始め、県内の皆様より多くのご配慮、ご協力をいただきました。また、コロナ禍という状況の中、開催県である神奈川県の方々には、大変お世話になりました。皆様へ心より感謝申し上げます、ご報告とさせていただきます。 <div style="text-align: right;">報告者: 小玉大地</div>			

報告者: 倉持雄一

割当日	令和 4年 6月 4日(土)	CC	菊池瑞昭(茨城)
カード	日大豊山(東京) 対 桐光学園(神奈川)	U2	村上翔(埼玉)
◇ ミーティングの内容			
・それぞれの判定力を出す。			
・プライマリーの確認。(ブラージを防ぐ)			
・Lのローテーションをベーシックにスムーズに。			
・ベンチ管理、タイマー、ショットクロックの訂正後のスタートをスムーズにわかりやすく。			
・交代選手が多いゲームだったため、1試合同じ基準で判定し続ける強さが必要である。			
《審判主任》 梶 崇司			

報告者: 小玉大地

割当日	令和 4年 6月 4日(土)	CC	大木裕一(山梨)
カード	帝京(東京) 対 法政二(神奈川)	U1	猪股祐介(千葉)
◇ ミーティングの内容			
・リバウンドファウルを全員が同じように取り上げていた。			
・両チームのキープレイヤーをもう少し整理できるともっとアグレッシブでタフなゲームになった。			
・バスケットカウント後のタウンティングを全員で共有すること。			
・ショットクロックを訂正するためにゲームを止めるタイミングを考え、その後の再開方法を確認すること。			
・ボールに目が行きがちになっている。			
《審判主任》 眞榮喜 工			

報告者: 平山智章

割当日	令和 4年 6月 4日(土)	CC	大野 太裕(茨城)
カード	県立上溝南(神奈川) 対 八千代松蔭(千葉)	U1	中野 嗣久(東京)
◇ ミーティングの内容			
・前日にCCの大野さんよりPGCのPPTを送っていただき、当日は3人で映像を確認してからゲームに臨んだ。			
PGCの内容としては、ベーシックなメカニクスを実践し、プライマリーをしっかり判定していきましょうという内容であった。			
・試合後のミーティングでは、メカニクスの話ではなく、判定の話が中心となったので、クルーワークとしては上手いったゲームだったとCCの大野さんより話があった。			
・トラベリングに関して、明らかなものをしっかりコールできたので、ベンチやプレイヤーにも伝わったゲームであった。			
・ファウルに関しても、明らかに影響があったプレーに笛を入れることができたので、大きなトラブルなくゲームを終えることができたと思う。			
《審判主任》			
割当日	令和 4年 6月 5日(日)	CC	小原 宏太(埼玉)
カード	成立学園(東京) 対 桐光学園(神奈川)	U2	土田 康隆(茨城)
◇ ミーティングの内容			
・PGCでは、ガイドラインの確認と、ベーシックなメカニクスの確認をしてゲームに臨んだ。			
・試合後のミーティングでは、ベンチからアピールがあったケースを、プライマリーのレフリースが確認してコミュニケーションを取ることができたので、大きなトラブルになることなくゲームを終えることができた。			
・4Qを見ていただいた平出さんからは、よくプレーを見て判定している、自分の感性を大切にとお話しいただいた。			
・ゲーム終了間際のインパクトの大きいケースは、時間・点差・ファウルの数などを判定要素に含めた上で、コールしてもよかったのではないかと話しいただいた。			
《審判主任》			